

畜産情報ノート

第7号

令和7年3月19日

島根県畜産技術センター

〒693-0031 島根県出雲市古志町 3775

URL=<https://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/gij>

今号の
内容

トピックス

- 令和7年度（前期）新規交配種雄牛

6月交配「金幸照」 7月交配「北斗百合」

研究紹介

- 高栄養自給粗飼料の栽培と給与による酪農経営の低コスト化
 - しまね和牛の「おいしさ」のさらなる改良
- ～新たなおいしさ指標「小ザシ」の改良のための研究～

トピックス

令和7年度（前期）新規交配種雄牛 ～ご協力をよろしく申し上げます～

令和6年度第3回島根県改良推進委員会（令和7年2月）において、令和7年度前期の新規交配種雄牛2頭が決定しました。しまね和牛の将来を担う種雄牛造成のために、皆様のご協力をよろしく申し上げます。

6月交配 金幸照号

生年月日 令和5年8月31日
産地 出雲市斐川町 多久田申治氏
血統 美津金幸－美津照重－百合茂
登録番号 黒原6693(83.2)



「金幸照（かねゆきてる）」は、兵庫系種雄牛の造成を目的に、特に皮下脂肪厚、脂肪交雑の改良が期待できる「美津金幸」を交配して造成しました。

母「みくにしげ」号は、家畜改良事業団ゲノミック評価で、ロース芯面積、バラの厚さ、推定歩留、脂肪交雑が高水準とされている高能力雌牛です。

本牛は、枝肉重量、ロース芯面積、推定歩留、脂肪交雑について特に高いゲノム育種価であり、体型面では、体伸、体上線、皮膚のゆとりにより優れています。系桜系の「福之姫」、「美国桜」、気高系の「百合久勝」などの若い繁殖雌牛への交配をおすすめします。

7月交配 北斗百合号

生年月日 令和5年10月13日
産地 出雲市 出雲農林高校(ET)
血統 北美津久-美津照重-美津百合
登録番号 黒16154(84.6)



「北斗百合(ほくとゆり)」は、兵庫系種雄牛の造成を目的に、特に枝肉重量、ロース芯面積、皮下脂肪厚の改良が期待できる「北美津久」を交配して造成しました。

母「ゆりこ」号は、育種価(令和7年1月評価)で、バラの厚さで上位1/3以上、脂肪交雑で上位1/10以上に評価されている高能力雌牛です。

本牛は、枝肉重量、ロース芯面積、推定歩留、脂肪交雑について特に高いゲノム育種価であり、体型面では、体伸、資質、尻幅、乳徴に優れています。

糸桜系の「福之姫」、「美国桜」、気高系の「百合久勝」、「幸紀雄」などの若い繁殖雌牛への交配をおすすめします。

研究紹介

高栄養自給粗飼料の栽培と給与による酪農経営の低コスト化

酪農・担い手支援科

近年の飼料価格高騰、高止まりにより畜産経営は圧迫されています。飼料コスト低減のためには、栄養化の高い飼料用トウモロコシの利用が有効です。

当センターでは、令和5～6年度において、飼料用トウモロコシの栽培試験と給与試験を行いました。

栽培試験では、早生品種4月播種7月収穫の乾物収量が1,886kg/10a、中生品種5月播種8月収穫が1,860kg/10aと同等の結果となり、いずれの作型も安定的な収量が確保出来ます。

また、二期作については、中生品種8月播種11月収穫の乾物収量が1,706kg/10aと一期作目と同等の収量となりました。播種時期が8月中旬以降であると、収穫適期である黄熟期まで登熟しない結果でしたが、8月上旬の播種であれば、本県でも飼料用トウモロコシの二期作栽培は可能との展望を描くことができました。

給与試験では、トウモロコシサイレージを原料とするTMRと購入飼料を原料とするTMRをそれぞれ給与した結果、乳量・乳質ともに差はなく、飼料用トウモロコシを用いたTMRを給与することで、当センター試算では、年間1頭当たり52,560円のコスト低減が可能と判断できました。

以上の結果をもとに、「飼料用トウモロコシ栽培ごよみ」を作成し提供中です。お手元にはない方は、担当科あてお問い合わせ願います。

令和7年度からは、高栄養化を実現するため、飼料用トウモロコシと水田裏作に対応する秋冬作飼料作物の栽培試験を行う計画としています。



当センター内飼料用トウモロコシ収穫の様子



収穫適期の子実断面

(左：黄熟初期、右：黄熟後期)

しまね和牛の「おいしさ」のさらなる改良

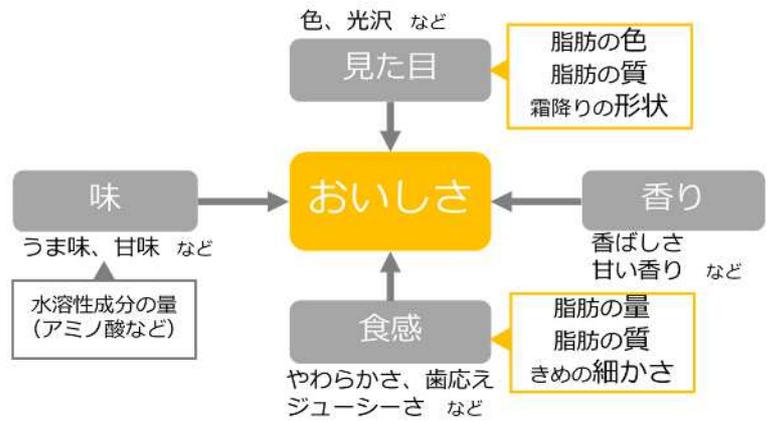
～新たなおいしさ指標「小ザシ」の改良のための研究～

肉用牛生産技術科・しまね和牛改良科

和牛肉の「おいしさ」にかかわる要素として、脂肪の「量」と「質」が重要な役割を担っています。脂肪の「質」は、肉の軟らかさ、ジューシーさや口どけといった食感、和牛特有の香りに影響するといわれています。

脂肪の「質」については、一価不飽和脂肪酸（MUFA）が影響し、その割合が高い方が良いとされています。島根県では、県食肉公社に出荷されたすべての和牛枝肉の MUFA 割合を継続的に調査し、育種価分析を行っています。測定データや育種価情報は生産者や関係機関に提供し、種牛の改良や飼養管理技術の向上に活用されています。

また、脂肪の「量」に関しては、BMS No. が評価基準や改良の指標として用いられています。このような中、最近になって、同じ BMS No. であっても、脂肪交雑の形状によって脂肪の量が異なることがわ



「粗ザシ」の例



BMSNo. 9
粗脂肪含量 53.3%

「小ザシ」の例



BMSNo. 9
粗脂肪含量 41.4%

かってきました。同じBMS No.だと、「粗ザシ」といわれる大ぶりの脂肪交雑（写真左）よりも、脂肪交雑が細かく入った「小ザシ」（写真右）の方が脂肪含量は低いとされています。脂肪は和牛を特徴づける要素ですが、一方で、多すぎる脂肪は食味を低下させると指摘されています。そして、流通においては、「小ザシ」が好まれる傾向にあります。

そこで、当センターでは、新たな「おいしさ」の指標として「小ザシ」に注目した研究にいち早く取り組み、令和4年から県食肉公社に出荷された和牛枝肉のロース芯の脂肪含量の測定を開始しています。さらに、令和5年に枝肉専用カメラを導入し、ロース芯断面の画像解析による「小ザシ」の程度を数値化する取組を開始しました。

令和7年度から、これまでの研究を拡充重点化して、小ザシ評価基準の確立とその評価手法を活用した新規ブランドの構築を先鋭的に狙う内容の研究を開始することとしています。行政と研究が一体となって、さらには生産者、関係団体、そして消費者とのコミュニケーションを図りながら、進めていく方向です。将来的には、しまね和牛の新たな改良形質として育種につなげる構想を描いています。



編
集
後
記

令和6年11月18日、ゲノミック評価を活用した「しまね和牛」のさらなる改良や、畜産経営における生産性向上・経営の効率化を目的として、(一社)家畜改良事業団家畜改良技術研究所荻野次長を講師に「畜産技術セミナー」を開催いたしました。当日は、試験研究成果の情報提供や新設した種雄牛造成施設の視察、「暁之藤」号をはじめとした種雄牛展示も併せて実施し、概ね200名という多数のご参加をいただき、大いに盛り上がりました。(T)

発行 島根県畜産技術センター 〒693-0031 島根県出雲市古志町 3775
電話：0853-21-2631 FAX：0853-21-2632 Eメール：chikugi@pref.shimane.lg.jp